



11 翁橋

津山藩は1678(延宝6)年、旧出雲往來の宮川大橋西詰に東大番所(ひがしおおばんしょ)、蘭田川(いだがわ)の翁橋東詰めに西大番所(にしおおばんしょ)をおきました。現在の翁橋は、津山の近代化を飾る意匠が各所に施され、親柱(おやばしら)にはブロンズの六角灯籠(ろっかくとうろう)、路面には東京復興局の舗装煉瓦(ほうれんが)が敷かれました。その意匠は現在、親柱に残り、アスファルトの下には関東大震災後の東京に敷かれたのと同じ舗装煉瓦が残ります。

津山市宮脇町15-1 竣工/1926(大正15)年
設計/中川伊平(いへい)
指定等/登録有形文化財
見学/随時可



12 日本基督教団津山教会

1879(明治12)年、津山で基督教の伝導が始まりました。木造二階建、勾配の急な切妻屋根(きりづまやね)を持つプロテスタント教会に華美な装飾はなく、外観は下見板張(したみいたばり)を基本とし、壁と玄関ポーチにはゴシック様式の特徴である尖塔(せんとう)アーチの窓が付けられています。津山市内に3棟現存する明治建築の一つで、隣接する旧杉山医院は牧師館として建てられたものです。

津山市田町29 0868-22-5553
竣工/1904(明治37)年
見学/外観は随時可、内部は事前予約が必要



13 知新館(旧平沼驥一郎別邸)

津山藩士だった平沼屋敷跡に再現された主屋、南北の庭、土蔵、土塀、腕木門棧瓦葺(うでぎもさんかわらぶき)の表門からなる典型的な中級武家屋敷です。主屋は、第35代内閣総理大臣・平沼驥一郎(さいちろう、1867-慶応3-1952-昭和27年)の生家を再現したもので、平沼の古希祝いに、郷土や法曹の人々が贈ったものです。津山市に寄贈され津山郷土館になった後「知新館」と改称されました。

津山市南新座(みなみしんざ)26
0868-32-2121(津山市産業文化部)
休/12/28-1/4 竣工/1937(昭和12)年
設計/中川伊平(いへい)
指定等/登録有形文化財
見学/外観は随時可、内部は9:00~17:00、事前予約が必要



17 河野美術館

河野医院は1900(明治33)年の開業。洋館は診療室として使われていました。2002(平成14)年には、河野馨(いわお、1920・大正9~2011・平成23年)が制作した油彩画、雑誌のイラストやデザイン画、映画や演劇のポスター、西洋人形やタペストリーなどを展示する美術館として開館しました。館内には電話室やシャンデリアも残されています。

津山市勝間田町16 0868-23-4285
開館/土・日曜日のみ
竣工/町屋は1867(慶応3)年、洋館は1918(大正7)年
見学/外観は随時可、内部は開館日の10:00~17:00



18 難波酒造

難波酒造は1889(明治22)年、現在の久米(くめ)郡久米町で創業しましたが、その後、朝鮮半島の京城本町に進出しました。そのとき出雲大社の宮司から「富を久しく迎える」という意味の銘柄「富久迎(ふくむかえ)」を授かりました。中山神社の神域から流れ出す、宮川の伏流水に恵まれた参道に蔵を移したのは大正時代。2002(平成14)年には「武蔵」の醸造も始めました。

津山市一宮436 0868-27-0008
竣工/不詳
見学/外観と店舗は随時可、蔵開きは毎年2月最終金・土・日曜日10:00~15:00(予約不要)



19 中山神社拝殿・幣殿

中山神社の社殿は、文武(もんむ)天皇時代の707(慶雲4年)に創建されたと伝えられ、『延喜式(えんぎしき)』には美作国唯一の男神大社で一宮であると書かれています。社殿は尼子晴久(あまごはるひさ)が1559(永祿2)年に再建したもので、拝殿と幣殿を設計した江川三郎八(さぶろうはち)は岡山県庁の建築宮繕技師で、近代岡山の学校建築・宗教建築を数多く手がけました。

津山市一宮695 0868-27-0051
竣工/1922(大正11)年
設計/江川三郎八
見学/外観は随時可、御朱印受付9:00~16:30



14 あけぼの旅館

津山市内に現存する最古の旅館です。幕末に町年寄を務めた錦屋の屋敷を引き継いだ建物は、明治時代初期の建造だといわれています。城下では目を引く建物だったため、空襲を警戒して二階建が一階建にされ、大広間、門なども取り壊されました。半面、南側建物の床飾りや欄間(らんま)、天井などには、明治時代の格式高い旅館特有の数寄屋風書院造(すきやふうしよんづくり)の特徴がよく残されています。

津山市戸川町31 0868-22-2043
休/不定休、盆・正月は休み。
竣工/江戸時代末期から昭和時代初期
指定等/登録有形文化財
見学/外観は随時可、内部は事前予約が必要



15 江見写真館

江見写真館の歴史は初代・兼次郎が上之町(うえのちょう)で写真館を開業した1873(明治6)年に始まります。敷地は津山城の堀の堤上(ついで)にあり、アメリカ西海岸に実在する写真館をモデルに建てられました。玄関南側に半円形の応接間、その屋上ペランダの背後には上部を半円弧状にした大型窓が並んでいます。二階のスタジオには、高いドーム型の天井から自然光が豊かに差し込みます。

津山市山下(さんげ)28-13 0868-22-2267
休/水曜日 竣工/1929(昭和4)年
設計/原田熊二郎
指定等/登録有形文化財
見学/外観は随時可、内部は営業時間内での事前予約が必要



16 津山郷土博物館(旧津山市庁舎)

初代津山市庁舎は1874(明治7)年建造の成器(せいぎ)小学校舎、三代目の現市庁舎は1982(昭和57)年に完成しました。1988(昭和63)年に津山郷土博物館となった二代目庁舎は鉄筋コンクリート造、地上三階・地下一階建。擬石(ぎせき)造の車寄(くるまよせ)を中心に左右対称。オールデコの外観は寒水石(かみずいせき)の掻き落としで、最上部にスクラッチタイルが貼られています。三階中央の吹抜部分は議場の跡です。

津山市山下(さんげ)92 0868-22-4567 休/月曜日、祝日の翌日、12月29日~1月3日
竣工/1933(昭和8)年 設計/磯兼権蔵
指定等/登録有形文化財 見学/9:00~17:00(入館は16:30まで)、入館料が必要



20 田熊の舞台

旧出雲往來沿いの美作東部では、江戸時代後期より農村歌舞伎が盛んでした。田熊八幡神社歌舞伎舞台は821(弘仁12)年の創建。第二代津山藩主・森長継(ながつぐ)が再建し、1664(寛文4)年9月9日に神楽を上演したと伝えられています。木造平屋建、入母屋造(いりもやづくり)、棧瓦葺(さんがわらぶき)。直径4mの皿回し式回り舞台の後方は、那岐山(なぎさん)を借景として取り入れるよう広く開けられています。

津山市田熊2384(田熊八幡神社)
0868-24-8413(津山市文化課文化財保護係)
竣工/1871(明治4)年
設計/野上米右衛門
指定等/重要有形民俗文化財、岡山県重要民俗資料 見学/随時可



21 多胡本家酒造場

因州(因幡)往來沿いの檜(ひの)は、吉井川の支流・加茂川(かもがわ)を行き交った高瀬舟の終点でもあり、米の集積地、素麺(そうめん)、醤油、清酒の産地として栄えました。加茂川の伏流水はカリウム、マグネシウムなどのミネラル豊富な硬度70。樹齢300有余年の五葉の松にちなむ清酒「加茂五葉(かもいつは)」は、熟練杜氏(とうじ)と蔵人(くらびと)によって、この伏流水と、酒造好適米「山田錦」や「日本晴」からつくり出されます。

津山市檜(なら)69 0868-29-1111
休/日・祝日、盆・正月(土は不定休)
竣工/江戸時代以降
見学/外観と店舗は随時可、酒蔵とビール工場は事前予約が必要



22 JR因美線美作滝尾駅

津山駅、院庄(いんしょう)駅、美作千代(みまさかせん代)駅、東津山駅、高野駅、美作滝尾駅、知和(ちわ)駅、美作河井駅が建てられたのは「小停車場本屋(ほんや)標準図(1930・昭和5年)」が検討されたころです。その中でも美作滝尾駅は、山田洋次監督の映画「男はつらいよ 寅次郎(とらじろう)紅の花」のロケ地にもなった登録有形文化財の木造駅舎で、貨物上家(うわや)は岡山県に現存するただ一つのもです。

津山市堀坂257-3
竣工/1928(昭和3)年
設計者/鉄道省
指定等/登録有形文化財
見学/随時可

